

佐賀県研究成果情報

不知火より樹勢が強く、減酸が早いカンキツ新品種 佐賀果試34号					
[要約] 不知火 を交配母樹として 紅甘夏 の花粉を交配して得られた珠心胚実生の中から、不知火 よりも樹勢が強く、減酸が早い系統を選抜し、育成したカンキツ新品種 佐賀果試34号 は、2006年7月13日に品種登録された。					
果樹試験場・品種開発研究担当			連絡先	0952-73-2275 <a href="mailto:kajushiken@pref.saga.lg.jp">kajushiken@pref.saga.lg.jp</a>	
部会名	果樹	専門	育種	対象	中晩生カンキツ

[背景・ねらい]

近年 不知火 が佐賀県にも導入され、食味が良く糖度が高く高単価で取引されていることから急速に普及拡大している。しかし、不知火 は樹勢が弱りやすく、そのため減酸不良や果実の小玉化などの問題が発生している。そこで、不知火 の珠心胚実生から樹勢が強く減酸が早い系統を選抜し、新品種として登録を目指す。

[成果の内容・特徴]

1. 不知火 を交配母樹として 紅甘夏 の花粉を交配して得られた珠心胚実生の中から 不知火 よりも樹勢が強く、減酸が早い 佐賀果試34号 を選抜した。
2. 樹勢は 不知火 と比べて強い。そのため果実の重さは320g程度でかなり重い。果形指数は89程度でかなり小さく、縦長な傾向である。(表1、表2)
3. 減酸は 不知火 に比べて早く、成熟期は育成地(小城市寺浦)において1月中旬頃である。(表2)
4. 佐賀果試34号 は2006年7月13日に品種登録された。

[成果の活用面・留意点]

1. 1月中旬に出荷可能な 不知火 と位置付けることができ、不知火の減酸不良園や樹勢の弱った園の更新のために非常に有効である。
2. 佐賀果試34号 の減酸が早いという特徴を最大限に発揮させるため、苗木により増殖を行う。
3. 増殖初期にはトゲの発生が認められるが、次第に消失する。
4. 高接ぎ2年目や加温ハウス内の高接ぎ樹では着花が十分確保されない恐れがあり注意が必要である。

[ 具体的データ ]

表 1 . カンキツ新品種 佐賀果試 34 号 の樹体及び果実特性

項目	佐賀果試 34 号	不知火	項目	佐賀果試 34 号	不知火
樹勢	強	中	果形指数	かなり小	やや小
葉身長・葉身幅	中	短・狭	果皮歩合	中	中
葉形指数	極小	中	酸味	低い	中
トゲの多少	無	無	成熟期	かなり早	やや早
果実重	かなり重	重	隔年結果性	小	中

表 2 . カンキツ新品種 佐賀果試 34 号 の果実品質比較

品種名	横径 (mm)	縦径 (mm)	果形 指数	果実の 重さ(g)	果皮重 (g)	果皮歩 合(%)	Brix	クエン酸 (%)
佐賀果試 34 号	86.7	99.0	87.7	316.6	100.4	31.2	13.0	0.98
不知火	80.7	84.7	95.5	264.6	64.9	24.4	13.4	1.52
清見	85.5	72.6	117.8	262.8	58.4	22.2	9.7	1.31

調査日：34 号は 2002 年 1 月 22 日、不知火は 1 月 26 日、清見は 1 月 15 日



図 1 . 佐賀果試 34 号 の結実状態

[ その他 ]

研究課題名：交雑育種法による早期出荷可能な中晩生カンキツ品種の開発

予算区分：県単

研究期間：2001 ~ 2010 年度

研究担当者：中村典義、末次信行

発表論文等：

1)中村・八田・松尾・大原・末次(2004)園芸学会九州支部研究収録 12 : 5

2)中村・八田・松尾・大原・末次(2005)九州農業研究第 67 号

3)中村・八田・大原・末次(2002 ~ 2004)佐賀果試業務年報